

## 境 テクシ

# 創意工夫で食品 廃棄物に資源価値を

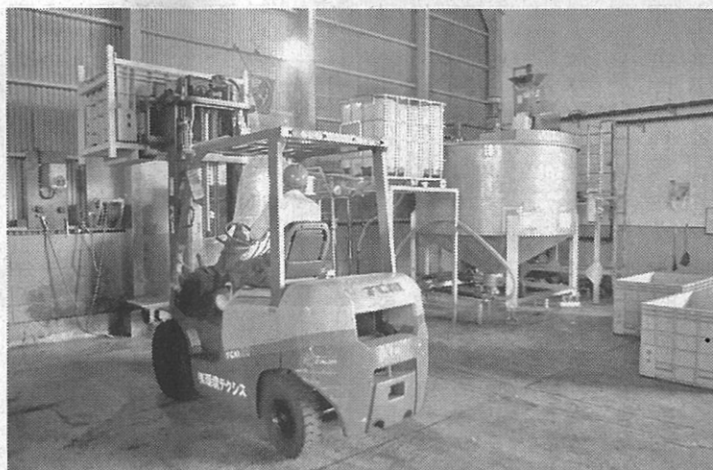
食品残さの飼肥料化  
ル法を提案する事業で  
事業を展開する環境  
成長を続けている。豊  
テクシス（愛知県豊川  
市、高橋慶社長）は、  
関との連携を武器に、  
「創意工夫をもって資  
源循環により新たな価  
値を生み出す」とする  
経営理念を掲げ、これ  
まで飼料化されていな  
かった残さを見いだ  
し、各排出元の状況に  
応じて最適なリサイク  
ル法を提案する事業で

食品工場から出る汚泥  
を堆肥化している。主  
力となる飼料化では日  
量約60トの処理能力を  
持ち、性状に応じて液  
状飼料と乾燥飼料につ  
くり分ける。現在の受  
け入れ量は、食品工場  
からの残さを中心に日  
量約10トで、うち約3  
分の2は有価で引き取  
っている。  
残さの資源価値を高  
めるために力を入れて  
いるのが、排出元の  
「オンサイト処理シス  
テムの導入」だ。排出  
モヤシ、小豆皮、ゴボ

現場で脱水・乾燥・濃  
縮などの劣化防止策を  
実施することで、高水分で  
腐りやすい残さの飼料  
化率を高め、有価での  
取引を可能にするも  
の。同社がこれまでの  
知見を生かし、排出物  
の調査・分析から処理  
方法の提示、機器の選  
定、処理物の買い取り  
まで、一連の流れを手  
掛ける。  
現在、このシステム  
の導入実績は全国で10  
カ所ほど。ピールカス  
、ニンジシユース  
、大豆、醬油かす  
等を扱ってきた。顧客  
からは、処分にかかる  
トータルコストが下げ  
られる他、工場内の臭  
気軽減や衛生環境の改  
善につなげられるとし  
て好評だという。  
また同社は、201  
7年2月に関連会社  
「農業生産法人リンネ  
ファーム」を立ち上げ、  
養豚事業にも乗り出  
す。現在、豚舎を豊川  
市内に建築中。自社で  
製造した液状飼料を活  
用し、200頭を肥育、  
年間800頭を出荷す  
る予定だ。試験農場と  
しての位置付けで、食  
品リサイクル飼料（エ  
コフィード）の可能性  
を検証していく。



工場の外観



工場内部のようす

高橋社長は、「エコ  
フィードの利用推進に  
あたっては、農家への  
普及啓蒙が重要。自社  
で養豚事業を手掛ける  
ことで、飼料コストを  
抑え、さらに肉の品質  
も高められることを伝  
えていきたい」と話し  
ている。